

## 再検証対象の公立・公的病院及び高度急性期・急性期機能を有する民間病院の具体的対応方針（その２）

### 八戸市立市民病院

#### 役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

##### 【役割・医療機能】

がん医療をはじめとする各医療領域において、地域における中核病院として、高度・専門医療を提供するとともに、引き続き、地域の医療機関との連携・強化を図りながら八戸地域の医療提供体制を維持していく。

また、自院の医療機能については、八戸地域で高度急性期が不足していることから、将来的に、急性期４床を高度急性期へ転換することを考えている。

##### 【病床規模の最適化に係る検証】

当院の病床利用率は高く、また、人口減少局面ではあるが地域の高齢化率は今後ますます上昇する見込みであり、当面の間、医療需要は大きく変わらないと予想している。とくに当院では、ドクターヘリ・カーによる急性期医療の充実に努めており、地域の中核病院として、多くの高度急性期及び急性期病床の確保が必要不可欠なものと考え、現在の病床規模を維持していく。

#### 医療連携の考え方

##### 【基本方針】

地域の中核病院として、他の医療機関への医師派遣や臨床研修医の育成に努めるとともに、地域の病院・診療所との機能分化・連携強化を図りながら、急性期重症疾患・特殊疾患などを中心に、高度・専門医療を提供していく。

##### 【具体的な医療連携】

医師派遣については、当院から五戸町、三戸町、南部町、おいらせ町の公立病院へ医師を派遣しており、引き続き、現在の体制を維持していく。

脳外科領域においては、一次脳卒中センター（PSC）コア施設として認定され 24 時間体制で脳卒中患者に対応している。コア施設の要件として患者相談窓口の設置が必要であり、福祉相談から転院調整まで関わり、地域連携パスを用いて回復期リハ病床を持っているメディカルコート八戸西病院、総合リハビリ美保野病院と連携強化をしている。市外においては、おいらせ病院、三戸中央病院、南部町医療センターなどリハビリテーションに力を入れている病院と連携している。

がん領域においては、拠点病院としての役割は果たしつつ、がん地域連携パスで連携実績のある岸原病院、はちのへ 99 クリニック、柏崎メディカルクリニック、公立七戸病院との連携強化をしていく。また、がん地域連携パスに参加している市内・市外の病院・クリニックと連携範囲

を広げていく。

退院支援においては、患者・家族の意向を取り入れつつ、急性期、回復期、慢性期の機能を見極めながら、八戸赤十字病院、青森労災病院、メディカルコート八戸西病院、岸原病院、八戸城北病院、三戸中央病院、南部町医療センター、南部病院、五戸病院、おいらせ病院、八戸平和病院などの地域の医療機関と連携強化を図る。

## **八戸赤十字病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

地域医療支援病院としての地域の医療機関との連携や退院支援体制を強化し、地域の医療機関において対応困難な重症例の受入れや救急患者の対応へ取り組む。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

2040 年までの人口推移をみると、八戸地域の人口総数は減少の見込みとなることが予測されているが、当院の主な利用者層となっている 65 歳以上の人口については極端な変化がないため、現在と同程度の医療需要が見込まれる。

また、2025 年の八戸地域の必要病床数では、高度急性期が不足する見込みとなっている。当院では一般病床入院患者の約 2 割が高度急性期機能の患者に該当することを鑑みて、高度急性期病床を 4 床増加の 12 床とする予定である。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

八戸地域のへき地医療を維持するため、三戸郡医療機関へ医師等の派遣を継続し、派遣病院との連携体制の強化を図る。

また、オンライン診療・相談における連携も強化し、へき地医療の体制を支える。

#### **【具体的な医療連携】**

##### **・メディカルコート八戸西病院**

脳疾患を中心に、当院にて高度専門医療を行った上、地域連携パスに参加するメディカルコート八戸西病院へリハビリ転院を実施するなど、状況に応じた医療連携を引き続き行っていく。

##### **・岩手医科大学**

関連病院として、様々な症例における患者紹介、急性期治療を経過した患者の受入れにてフォローを行うなど相互に連携する。

##### **・はるみ眼科・循環器内科クリニック**

心疾患を中心に、地域のかかりつけ医機能を担っているはるみ眼科・循環器内科クリニックより患者等の受入れを行い、高度専門医療を実施する。

##### **・八戸市立市民病院**

三八地域の中核病院として、様々な症例における患者紹介、受入れにてフォローを行うなど相互に連携し、八戸地域の医療体制の充実を図る。

## **独立行政法人労働者健康安全機構青森労災病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

- ・高度急性期・急性期・回復期を併せ持つケアミックス型病院として、また、地域医療支援病院、紹介受診重点医療機関、がん診療連携推進病院として、八戸医療圏における中核的医療を支えている。
- ・労働人口が減少している現在において、労災病院として疾病に罹患した勤労者の仕事の継続や職場への復帰が円滑に図られるよう治療と仕事の両立の支援を積極的に行っている。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

- ・令和4年9月6日開催の地域医療構想調整会議（書面開催）において、許可病床 399 床から 300 床への減少が認められ、令和5年8月1日付で正式に 300 床となり病床規模の最適化を図った。
- ・現在の稼働病床は 252 床であるが、近年中に医師の確保等による診療体制の拡充を図り、休棟中の 46 床を回復期病床として再稼働の上、計 300 床での稼働を計画している。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

- ・「やさしく、あたたかい病院」という理念のもと、高度急性期・急性期・回復期を併せ持つケアミックス型病院として、切れ目のない医療を提供する総合病院であることを基本方針としている。

#### **【具体的な医療連携】**

- ・地域医療支援病院、紹介受診重点医療機関として、診療の4本柱であるがん、生活習慣病、整形外科領域、泌尿器科領域を中心とした医療連携を推進している。
- ・回復期機能の充実を図るため、八戸市立市民病院、八戸赤十字病院との医療連携を推進していく。
- ・在宅療養後方支援病院として、在宅医との連携を推進し救急入院やレスパイト入院を受入れている。

#### **【その他】**

- ・がん診療連携推進病院として、がんの早期発見の推進を目的としたがん検診センターを開設し自治体等からがん検診を受託している。

## **国民健康保険おいらせ病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

地域医療を守る病院としての役割を担うため、かかりつけ医機能を果たし、地域に必要とされる外来医療の提供と、中核病院である八戸市立市民病院の後方支援病院として、救急患者の搬送や在宅復帰のための入院受入れ、町内の老人・介護施設からの入院受入れを推進する。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

今後見込まれる回復期の医療需要の増加に対応するため、病床の機能変更を検討し、病床利用率の安定化と効率的かつ効果的な医療体制の構築を図る。

#### **【その他】**

建物の老朽化と災害の危険区域に立地していることから、令和 12 年頃を目途に病院の移転新築を検討しており、それに伴い病床数を 70 床に設定し、急性期及び回復期の病床数をそれぞれ 30～40 の間にする方向で検討を進めている。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

八戸圏域医療圏の基幹病院である八戸市立市民病院との連携を強化しながら、質の高い地域医療の確保に努める。

#### **【具体的な医療連携】**

現在、八戸市立市民病院からは複数の診療科で診療応援をいただいております、より良い地域医療体制を維持できる現状にあり、今後も連携継続による質の高い地域医療の確保に努める。

## **三戸町国民健康保険三戸中央病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

内科・総合診療科、整形外科を中心とした外来・入院診療の提供、24 時間体制の二次救急、「へき地医療拠点病院」として無医地区等への巡回診療、訪問診療を実施し、町内唯一の病院として地域医療の中核機能を担う。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

当院は、一般病床 144 床として開院して以降、地域の医療需要、機能需要の視点から、病床数の削減や転換を進めてきた。

H27. 1 : 144 床（一般 95 床、療養 49 床）

H27. 7 : 144 床（一般 111 床、療養 33 床）

H28. 11 : 144 床（一般 101 床、地ケア 10 床、療養 33 床）

H29. 4 : 142 床（一般 103 床、地ケア 10 床、療養 29 床）

H30. 10 : 142 床（一般 103 床、地ケア 20 床、療養 19 床）

R 2. 7 : 96 床（一般 57 床、地ケア 20 床、療養 19 床）

R 4. 3 : 96 床（一般 69 床、地ケア 18 床、療養 9 床、新型コロナ重点医療機関）

今後の医療需要の見込みとしては、総人口は減少傾向が続く一方で、75 歳以上の人口は 2030 年まで増加する見込みであり、当院の入院患者の約 8 割が後期高齢者医療制度の利用者であることを踏まえると、入院患者数は大きな増減はなく推移すると見込まれるが、地域包括ケア病床及び療養病床の利用が増加し、一般病床の利用が減少するなど、利用バランスの変化が想定される。

また、過去に看護師不足から休棟に至った一般病棟があるが、近年の最大入院患者数に鑑みれば、今後も再開の必要性に乏しく、当該病棟の病床については削減が必要である。

このため、一般病床は削減し、地域包括ケア病床、療養病床は新型コロナ重点医療機関指定前の病床数を維持して、病床規模の最適化を図るものである。

R 7. 7 : 84 床（一般 45 床、地ケア 20 床、療養 19 床）

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

青森県立中央病院からの常勤医師派遣による総合診療科の外来・入院診療、他院からの診療応援による複数の診療科での外来診療を継続して、地域住民が必要な医療サービスを受けられる体制を維持する。

八戸市立市民病院等で高度な医療を受診した患者の入院受入れを行い、在宅復帰のための医療を提供する。

田子診療所との連携を継続し、三戸・田子地域の医療提供体制を維持する。

【具体的な医療連携】

・青森県立中央病院

常勤医師4名の派遣を受け、総合診療科の外来・入院診療を行う。

・八戸市立市民病院、八戸赤十字病院

八戸市立市民病院から整形外科週1回、脳神経外科月1回、八戸赤十字病院から循環器科月2回の派遣を受け、交通手段の乏しい人でも住み慣れた地域で医療サービスを受けられる体制を維持する。

両病院で急性期の治療を終えた患者を当院で受入れ、地域包括ケア病床による在宅復帰支援を行う。

・田子診療所

宿日直医師の派遣を受け、二次救急機能を維持する。診療のための医師の相互派遣、検査等患者の当院での受入れを継続し、三戸・田子地域の医療提供体制を維持する。

## **国民健康保険五戸総合病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

- ・五戸総合病院は、国民健康保険五戸総合病院として開設されて以来、五戸地方の地域医療機関として、五戸町民のニーズに対応した、高度・専門医療の提供に努めるとともに、公立病院として、救急医療やへき地医療をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策等に積極的に取り組んでおり、地域において重要な役割を担っている。

#### **【病床】**

- ・病床機能報告上、病棟単位の報告となるため、4階病棟 105 床と 5階病棟 60 床をどちらも急性期として報告しているが、実態としては、令和元年度から看護師不足により 4階病棟 105 床のうち 45 床を休床とし、現在に至っている。
- ・青森県地域医療構想における八戸地域の状況及び当院の状況を踏まえ、休床中の 45 床のうち、20 床は減床、25 床は再稼働し、令和 7 年度時点の病床規模については急性期 145 床で検討している。なお、看護師不足については、採用人数を増やし解消していく。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

- ・八戸地域の必要病床数、当院の病床利用率、医療需要（人口減少等）の観点から五戸地方唯一の総合病院として、求められる役割・医療機能を提供していく上で必要な病床を確保していく。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

- ・五戸町は地域医療構想の構想区域と同様の構成市町村である連携中枢都市圏の連携都市です。当院はこうした役割を十分に認識した上で、八戸地域の公立病院をはじめ、各医療機関との連携を強化することによって地域全体の医療提供体制・医療機能の充実・強化に努めます。

#### **【具体的な医療連携】**

- ・当院は令和 7 年度においても、八戸地域の中核病院である八戸市立市民病院のほか、八戸赤十字病院・青森労災病院・十和田市立中央病院等と連携して患者の容態に応じて退院や在宅医療支援、又は、再入院のための調整を行える体制充実に努めていきます。
- ・新興感染症への対応については、新型コロナウイルス感染症への対応にかかる経験を踏まえ、検査等の治療対応のほか、感染患者の症状の重さに応じて当院での入院や、八戸市立市民病院・八戸赤十字病院・青森労災病院への搬送等、連携を図りながら公立病院として求められる役割を果たしていきます。
- ・八戸市立市民病院周産期センターと連携し、令和 5 年 6 月から産科セミオープンシステムを開始し通常の妊婦健診を当院で、夜間休日の救急対応及び分娩を八戸市立市民病院にて行い連携を強化しています。



【その他】

- ・当院では協力型臨床研修指定病院として、県内外 14 の協力型臨床研修指定病院と提携しています。

## **国民健康保険南部町医療センター**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

現在の役割は、継続して担っていくこととするが、医療機能については、今後南部町において 74 歳未満の入院患者数が減少し 75 歳以上の入院患者の増加が見込まれることから急性期の需要が減少していくと推測されるため、一般病床 26 床(急性期 26 床)を急性期 22 床、回復期 4 床への一部変更する。

#### **【病床】**

令和 7 年度時点の病床数規模については現状維持する。

医療機能については、上述のとおり、一般病床 26 床のうち急性期 22 床、回復期 4 床とする。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

- ①2045 年までの町の人口推計を基に令和 2 年(2020)国勢調査人口から令和 7 年(2025)までは、1,533 人の減少が推計されている。しかし 65 歳以上の高齢者及び後期高齢者人口は、併せて 538 人の増加が見込まれており令和 7 年以降もほぼ同様のペースで推計することが予想される。このことから現在と同程度の医療需要が見込まれる。
- ②新型コロナウイルス感染症の病床確保により、病床利用率が低下しているが、医療需要の観点から当センターは、平成 26 年度移転し、医療センターと健康センターの連携を図るため併設しており、町民の検診、予防接種などの公衆衛生事業への協力へ大きく寄与している。
- ③厚生労働省(2020)年患者調査の概況より南部町における推計患者数を算出した場合、75 歳以上は令和 22 年(2040)まで増加する予想されております。よって、当センターにおける役割・医療機能は現状を維持していくことが必要であるという認識から現在の病床数を確保していく。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

現在、複数の科において他院からの診療応援を受けながら外来診療と救急診療を行っています。当センターは在宅復帰に向けた医療の継続と看取りも含めた在宅医療の強化を図りながら、八戸地域医療圏での後方支援病院として現有の病床数を維持し、地域連携クリニカルパスなどを積極的に運用するなどして、他院と連携していく。

#### **【具体的な医療連携】**

- ・八戸市立 市民病院関係

現在、八戸圏域連携中枢都市圏事業として、複数の診療科の診療応援をいただいております、移動

手段の乏しい高齢者の多い当町では、出向かずとも受診できることから、安心・安全な地域医療体制を維持できる現状にあります。今後も八戸市民病院からの診療応援をいただきながら、地域連携クリニカルパスなどを通しての互いの患者紹介、手術後の在宅復帰を見据えたりハビリ患者への相互関与、複雑な診療報酬改定などへ対応可能な他職種による人材育成など、引き続き連携しながら質の高い地域医療の確保に努めたい。

・八戸赤十字病院関係

現在、整形外科、循環器内科など複数の診療科の診療応援をいただいております、特に高齢者の多い当町では、出向かずとも受診できることから、安心・安全な地域医療体制を維持できる現状にあります。今後も八戸赤十字病院からの診療応援をいただきながら、地域連携クリニカルパスなどを通しての互いの患者紹介、手術後の在宅復帰を見据えたりハビリ患者への相互関与、複雑な診療報酬改定などへも対応可能な他職種による人材育成など、引き続き連携しながら質の高い地域医療の確保に努めたい。

・青森労災病院関係

現在、透析患者への対応として泌尿器科をはじめとする複数の診療科の診療応援をいただいております、特に身近な地域で透析を受けることができることから、安心・安全な地域医療体制を維持できる現状にあります。今後も八戸労災病院からの診療応援をいただきながら、地域連携クリニカルパスなどを通しての互いの患者紹介、手術後の在宅復帰を見据えたりハビリ患者への相互関与、複雑な診療報酬改定などへも対応可能な他職種による人材育成など、引き続き連携しながら質の高い地域医療の確保に努めたい。

・弘前大学付属病院

救急告示病院として、継続していくため、常勤医のみでは対応ができないことから、日直及び当直を含めた診療応援を今後も継続して連携を図りながら高い地域医療の確保に努めたい。

## **メディカルコート八戸西病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

今後の八戸地域の医療需要や地域における当院の役割を踏まえ、急性期病院の後方支援病院として、急性期治療終了後のリハビリが必要な方だけでなく独居、老々介護等で自宅に戻れない方等も受け入れ、退院支援を行っていく。

現在の役割及び医療機能の通り、高度急性期病院の後方支援病院として、急性期治療終了後のリハビリが必要な方だけでなく独居、老々介護等で自宅に戻れない方等も受け入れ、退院支援を行う。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病床は、ほぼ常時満床に近い状態で利用されており、引き続き現在の役割、医療機能を提供していくためにも現在の病床数を維持していく。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

急性期病院での治療を終了した方で、在宅復帰するためにリハビリが必要な方の紹介を受け入れ、在宅復帰させるとともに、退院後に必要な介護サービスへスムーズに繋がるよう退院支援を行う。

#### **【具体的な医療連携】**

主に八戸市立市民病院、八戸赤十字病院、十和田中央病院から急性期医療を終了した方の紹介を受け、当院で集中的にリハビリを行い早期退院、在宅復帰を目指す。退院後も必要な医療を受けられるよう地域の医療機関へ紹介を行う。また、地域の介護施設の協力医療機関として入所者急変の際は必要な受け入れを行う。

## **室岡整形外科記念病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

現在の役割及び医療機能を担う。

(八戸赤十字病院・八戸市立市民病院・青森労災病院の3大病院との医療連携を継続)

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

当院の病床利用率は、コロナ禍の令和4年度（平均）で75.6%、令和4年度病床機能報告（令和3年4月1日～令和4年3月31日）の最大使用病床数は48床となっており、診療実績からも適当な病床数と考えられるため、現在の50床を維持する。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

地域に密着した病院として、八戸地域医療圏で他院との連携をさらに密にし診療に励んでいく。

#### **【具体的な医療連携】**

八戸赤十字病院・八戸市立市民病院・青森労災病院の3大病院や近隣の有床・無床診療所と密に連携しており、患者様の紹介・逆紹介が多いです。

## **八戸平和病院** ※「調整中」のため次回協議

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

診療科の充実と専門性の進展、周辺地域の高齢者介護施設等の利用者の急変時の対応など、地域に根ざした病院として、急性期医療を継続していく。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

現在、当院では病院の老朽化に伴い、建て替え、改築、病床数の見直しなど病院運営について検討しています。費用面や時期、病床規模など見込みが立っておらず、現時点でいつ頃何床減少するのか報告できる状況にありません。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

地域密着の身近な病院を目指し、開業の先生方との病診連携、当院の診療科の枠を超えた診療科やより高度な医療機能を有する病院との病病連携にも力を入れています。

#### **【具体的な医療連携】**

八戸市立市民病院、八戸赤十字病院より急性期～亜急性期、手術後のリハ目的などの患者の受入を中野眼科医院からは眼科疾患（小児眼科、白内障）患者の受入を継続していくほか、透析患者の通常・問題発生時の受入またCKD患者、股関節・膝関節疾患、泌尿器科疾患さらには複合的ニーズを有する高齢者患者の受入など率先して連携を進めていきたい。

当院入院中の患者に心疾患または脳血管疾患が発症した場合、八戸市立市民病院、青森労災病院、八戸赤十字病院へ紹介している。また、治療後のフォローの一環として退院先との連携にも継続して力を入れている。

## **社会医療法人博進会南部病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

救急告知病院として時間外救急患者 R4 年度 1150 件受け入れており、手術件数月平均 30 件実施している。地域の救急医療を担い病病・病診連携を図っていく。

#### **【病床】**

現在、一般・地域包括ケア病棟ともに稼働率 90%であることから、病床規模を維持する。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

地域の高齢化とともに、高齢者の骨折による入院が増加傾向となり、術後リハビリや入院期間の変化により病床変更を行った。

(従来) 1 病棟：一般 40 床、地域包括ケア 20 床

(R5.8 月) 2 病棟：一般 36 床、地域包括ケア 24 床

地域包括ケア病棟でのリハビリ充実が図れ、在宅復帰率も 90%維持できている。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

三戸地域において手術する外科・整形外科施設がない為、近隣開業医の入院患者紹介、救急搬送患者、時間外患者などの対応を行っている。また、在宅医療では継続的な医療と看取り対応を行い在宅支援病院としての役割を担っていく。

#### **【具体的な医療連携】**

・八戸市立市民病院、八戸赤十字病院

現在、脳梗塞と大腿部頸部骨折における連携パスを通してお互いの患者紹介、術後の在宅復帰を見据えたりハビリなど、引き続き連携しながら地域医療の確保に努める。

#### **【その他】**

近隣の無床診療所からの紹介を受け入れ、入院・手術等を行っている。また、新型コロナウイルス感染に対する、発熱外来・ワクチン接種・入院の受け入れを行っており、引き続き地域医療に努めていく。